



WHILL Model F お客様向け公共バス利用マニュアル

WHILL Model Fで安全に公共バスをご利用いただくためのマニュアルです。公共バスをご利用する前に必ずお読みください。

※すべての方が、すべての状況で公共バスを安全にご利用できることを保証するものではありません。本書の注意事項を遵守できない方は、公共バスのご利用はお控えください。ご自身、または周囲の方の怪我の原因となる可能性があります。

バスへの乗降

☑ ご自身で操作する

WHILLは介助者が後ろから押して動かすことはできません。ご利用者様自身でWHILLを操作してバスへの乗車をお願いします。

☑ 前進方向で乗降する

前進乗車、前進降車をお願いします。後進で乗降を行うと、進行方向の路面を正しく視認できず、スロープから落下する恐れがあります。

☑ スロープ乗降時は姿勢を変える

バスのスロープの角度は、WHILLの最大登坂角度を超える場合があります、乗車時に、後方に転倒する恐れがあります。

⚠ 乗車する際には、前傾姿勢になることで転倒の危険は低減できます。

⚠ 降車する際は、後傾姿勢になると着地の時の衝撃が緩和されます。

☑ スロープ乗降時の速度は1か2にする

登坂速度が速いとスロープを登り切った後に、車内の備品への衝突や、他の乗客への接触事故が発生する恐れがあります。

乗車時は前傾
姿勢に！



降車時は後傾
姿勢に！



※雨の日はバスのスロープが滑って乗車ができないこともありますので、雨天時のバスのご利用は十分注意してください。

バス車内での固定

1 バス車内では固定する

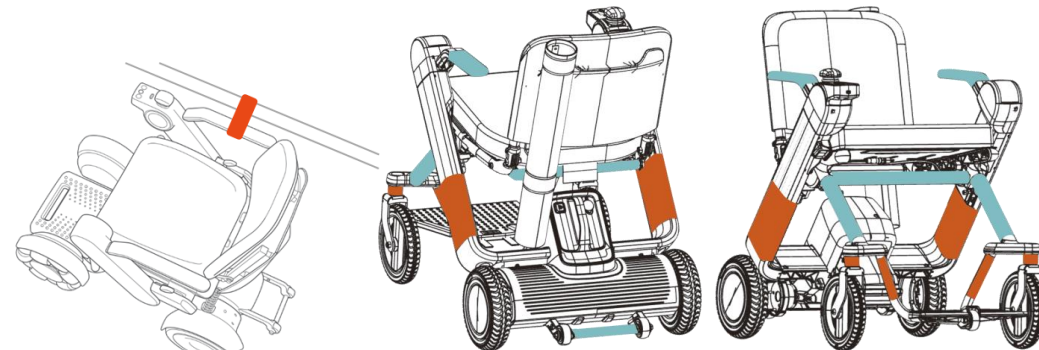
バス車内では、乗務員の指示にしたがって固定バンドによる固定をされることをお勧めします。

※バスの不意の急ハンドルや急ブレーキによってWHILLが動いてしまい、ご利用者自身、または周囲の乗客の怪我の原因になることがあります。乗務員の指示に従って必要な固定を行ってください。

※フックを掛けた場所に傷が付く可能性があります。明るいラベルのテープを貼付することで、傷を防止し、またフックを掛ける場所が乗務員に伝えやすくなります。

2 固定したら電源オフ

バスの運転中は必ず電源を落とし、誤ってコントローラーに触っても動作しないようにしてください。



横転防止対応

■ フックを掛けて良い場所

■ フックを掛けてはいけない場所



WHILL Model F バス乗務員向けWHILL取扱マニュアル

WHILL Model Fで安全に公共バスをご利用いただくためのマニュアルです。当製品の注意事項をご確認ください。

※すべての方が、すべての状況で公共バスを安全にご利用できることを保証するものではありません。特に公共バスの利用に不慣れなお客様の場合、思わぬ事故につながる可能性がありますので、本マニュアルの注意事項をご確認ください。

バスへの乗降

☑ 操作はお客様

WHILLは後ろから押して動かすことはできません。WHILLの背もたれや、ひじ置きの手を掛けておき、万一の時は背もたれを腕全体で支えてください。

Model Fの最大荷重115kg、自重約27kg 合計142kgとなります。

☑ 乗降時は脱輪に注意

スロープ乗降時に脱輪しないか、必要に応じて誘導してあげてください。

☑ スロープでの乗車時は前傾姿勢

バスのスロープの角度は、WHILLの最大登坂角度を超える場合があります、乗車時に後方に転倒する恐れがあります。前傾姿勢になることで安定して乗車できるようになるので、お客様に前傾姿勢になるようにお声がけください。

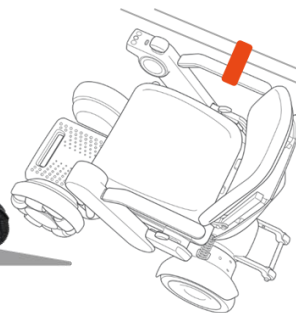
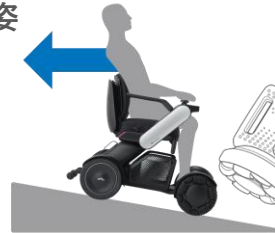
☑ スロープ乗降時の速度は1か2

登坂速度が速いと、スロープを登り切った後に、車内の備品への衝突や、他の乗客への接触事故が発生する恐れがあるので、速度設定を1か2にするようにお伝えください。

乗車時は前傾姿勢に！



降車時は後傾姿勢に！



横転防止対応

バス車内での固定

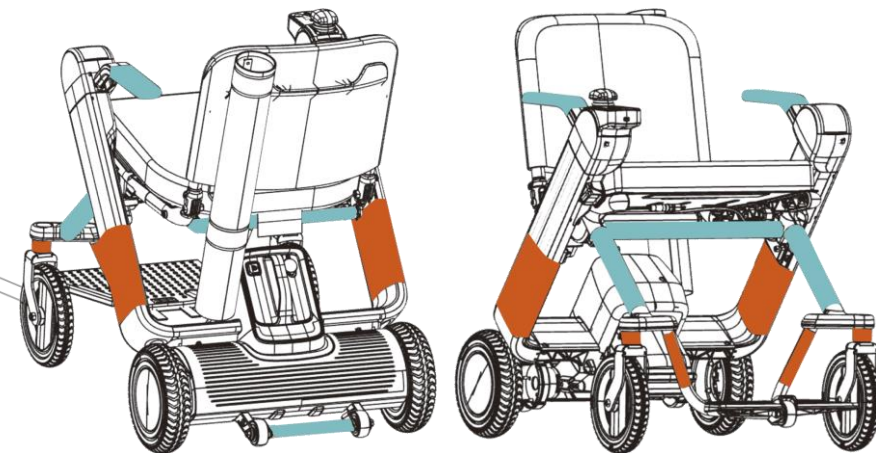
1 バス車内では固定

バス車内では、固定バンドによる固定をされることをお勧めします。

※バスの不意の急ハンドルや急ブレーキによってWHILLが動いてしまい、ご利用者自身、または周囲の乗客の怪我の原因になることがあります。

2 固定したら電源オフ

バスの運転中は必ず電源を落とすようにお伝えください。



■ フックを掛けて良い場所
■ フックを掛けてはいけない場所

※雨の日はバスのスロープが滑って乗車ができないこともあります。